

株主の皆様へ

FUJIFILM NEWS

Pick Up 1

「撮る、残す、飾る、そして贈る」

“チェキ”で広がる 写真の楽しみ方



Pick Up 2

印刷領域の
未来を切り拓く富士フイルム

FUJIFILM
INKJET
TECHNOLOGY



株主の皆様へ
次なる成長を
実現する
戦略的な飛躍を
目指して

上期業績ハイライト
為替の影響により減収減益となるも、
為替影響を除いた
オペレーションベースでは
当初計画に対して順調な進捗

セグメントの状況
フラットパネルディスプレイ材料事業、
電子材料事業が伸長



株主の皆様へ

次なる成長を実現する
戦略的な飛躍を目指して



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年度上半期の振り返り

2016年度上半期（2016年4月1日～9月30日）の業績は、為替の円高によるマイナス影響（989億円）などにより、売上高は1兆1,209億円（前年同期比8.6%減）となりましたが、フラットパネルディスプレイ材料事業、電子材料事業などで売上を伸ばしました。営業利益は、為替の円高によるマイナス影響（233億円）を受け、635億円（前年同期比21.3%減）となりました。

中期経営計画「VISION2016」の達成に向け全社をあげて邁進し、為替影響を除いたオペレーションベースでは当初計画に対して順調な進捗となっていますが、為替の円高が大きく影響し、売上高及び営業利益が計画を下回った推移となりました。通期の業績予想においては現在の為替状況を織り込み、売上高は2兆4,000億円、営業利益は1,920億円へ下方修正いたしました。

2016年度中間期の配当金は、1株当たり35円といたしました。期末配当金は、1株当たり35円を予定しており、年間配当金は7期連続増配となる、前年度比5円増配の70円を予定しております。

今後の取り組み

今後も、中国をはじめとするアジア新興国などの景気下振れ懸念に加え、英国のEU離脱問題や米国の政権移行、地政学的リスクなど、世界情勢の不確実性の高まりから為替相場では円高傾向が続くと想定されます。日本においても、海外経済の減速を受けて停滞感が強まっています。厳しい環境下ではありますが、各事業の戦略に基づいた活動を完遂することに加え、より収益性の高い製品の拡販や徹底的なコストダウンなどを進め、「VISION2016」最終年度でしっかりと結果を残し、次なる成長を実現する戦略的な飛躍を目指します。

この戦略的な飛躍に向けて、中長期的に成長を期待する「再生医療事業」領域では、先手を打った取り組みでグローバルリーダーを目指します。iPS細胞の開発・製造の世界的なリーディングカンパニーである米国Cellular Dynamics International, Inc.が、米国国立眼科研究所と、他家iPS細胞を用いた加齢黄斑変性の治療に関する共同研究開発契約を締結。さらに、網膜疾患治療の世界的権威であるDr. David Gammと他家iPS細胞を用いた網膜疾患の治療法を開発する新会社を米国に設立しました。これに加え、9月にはiPS細胞作製に関わる主要な特許を米国などに続き日本でも取得しました。今後、iPS細胞の受託生産ビジネスを拡大していきます。

引き続き、「ヘルスケア」「高機能材料」「ドキュメント」の重点事業分野を中心に、戦略的M&Aやパートナーとの提携など、次のステージに向けた活動を進めていきますので、ご期待ください。

そして現在、2017年度からの次期中期経営計画を策定中です。中長期的に成長を継続できるビジネスポートフォリオをさらに充実させていきます。また、「新規事業の強化・育成」「効率的な経営」「グローバル展開の加速」をより強力に推し進めるなど、次の戦略的な飛躍を体現する新たな3カ年計画とします。社会とともに歩む企業の責務として、経済的価値と社会的価値の向上をともに目指し、先進技術・独自技術の融合・創出により新たな価値を創造することで、当社に寄せられる多くの期待に応えていきます。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願いいたします。

2016年12月

代表取締役会長・CEO

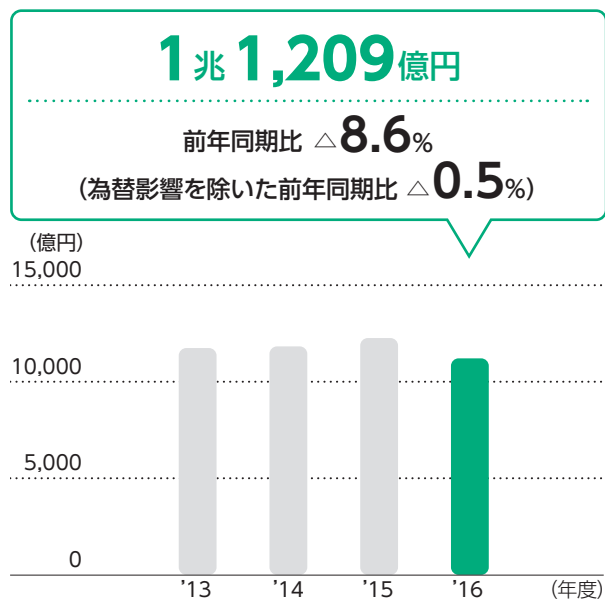
古森重隆

代表取締役社長・COO

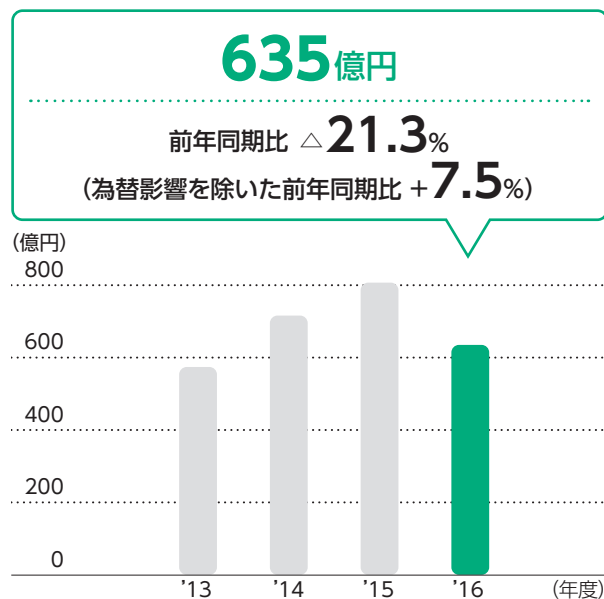
助野健児

上期業績ハイライト

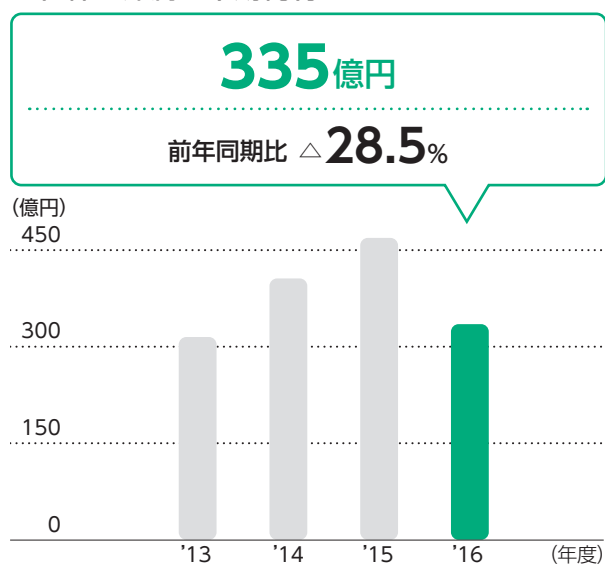
売上高



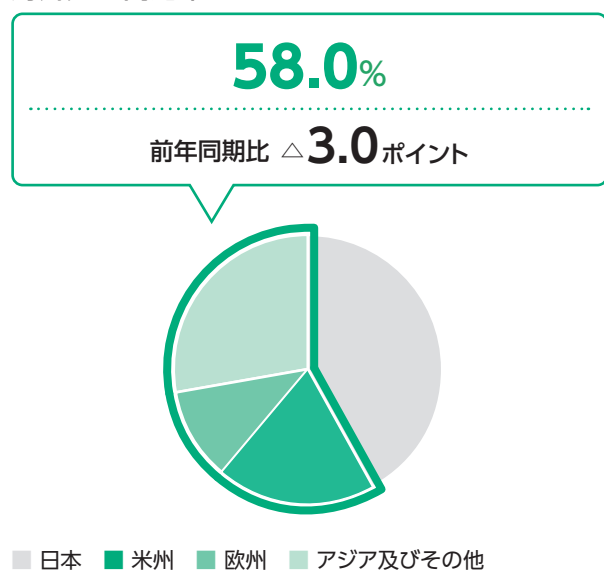
営業利益



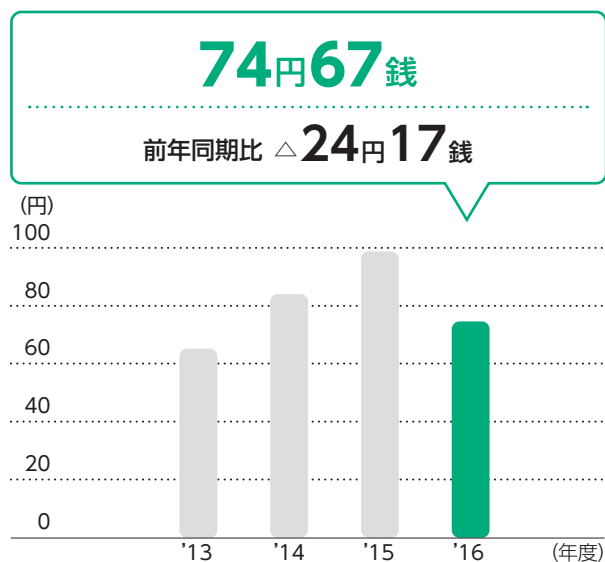
当社株主帰属四半期純利益



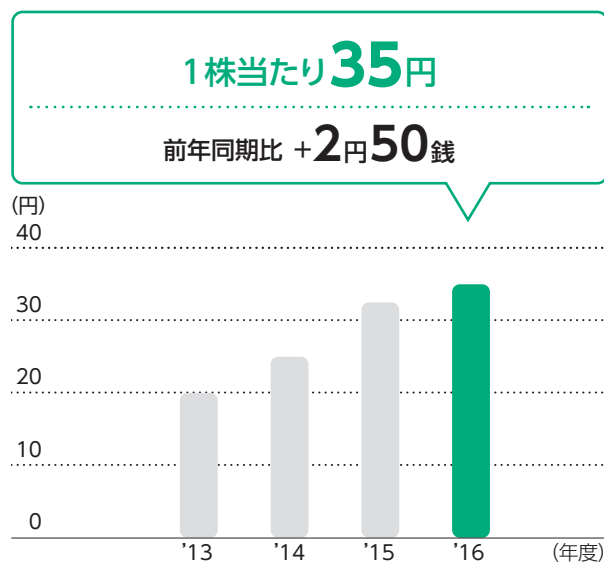
海外売上高比率



1株当たり当社株主帰属四半期純利益



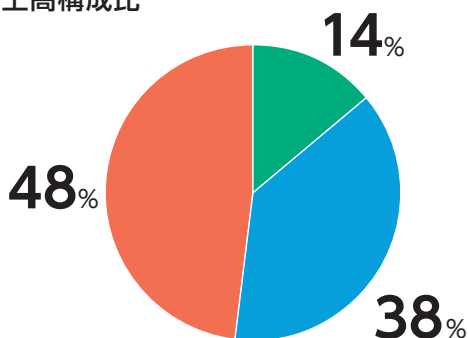
中間配当金



セグメントの状況

■ イメージングソリューション ■ インフォメーションソリューション ■ ドキュメントソリューション

売上高構成比



売上高
1兆1,209億円

サブセグメント別売上高

フォトイメージング
1,056億円

光学・電子映像
476億円

ヘルスケア
1,801億円

フラットパネルディスプレイ材料
485億円

産業機材・電子材料
517億円

記録メディア
217億円

グラフィックシステム
1,272億円

その他
24億円

オフィスプロダクト
2,376億円

オフィスプリンター
810億円

プロダクションサービス
693億円

グローバルサービス
928億円

その他
554億円

イメージングソリューション

売上高 **1,532**億円

(前年同期比△11.5%
為替影響を除いた前年同期比+0.4%)

営業利益 **89**億円

(前年同期比△28.5%
為替影響を除いた前年同期比+21.7%)

業績概要

- ・インスタントカメラ「チェキ」、チェキフィルムなどの販売が欧米を中心に好調に推移
- ・電子映像では、フラッグシップモデル[FUJIFILM X-Pro2]や[FUJIFILM X-T2]及び交換レンズの販売が伸長

今後の取り組み

- ・デジタルカメラ「Xシリーズ」及び交換レンズのさらなる拡販
- ・高い評価を受けている4Kカメラ対応の放送用ズームレンズのワールドワイドにおけるシェア拡大

インフォメーションソリューション

売上高 **4,316**億円

(前年同期比△6.3%
為替影響を除いた前年同期比+2.8%)

営業利益 **327**億円

(前年同期比△6.0%
為替影響を除いた前年同期比+24.7%)

業績概要

- ・医療システムでは医療ITなど成長分野の販売が堅調
- ・フラットパネルディスプレイ材料は、販売が堅調に推移し売上が増加。「WVフィルム」の販売が好調
- ・電子材料ではフォトリン周材の先端製品などの販売が堅調に推移し、売上が増加

今後の取り組み

- ・抗がん剤やアルツハイマー型認知症治療薬などのパイプラインの開発を着実に推進
- ・電子材料では、連結子会社化したFUJIFILM Ultra Pure Solutions, Inc.の幅広い製品ラインアップ、製造設備、顧客基盤も活用し、さらに事業を拡大

ドキュメントソリューション

売上高 **5,361**億円

(前年同期比△9.5%
為替影響を除いた前年同期比△3.4%)

営業利益 **369**億円

(前年同期比△23.7%
為替影響を除いた前年同期比△10.5%)

業績概要

- ・オフィスプロダクトは、国内ではモノクロ機の販売が好調に推移、アジア・オセアニア地域においては、モノクロ機、カラー機ともに販売台数が増加
- ・グローバルサービスは、国内及びアジア・オセアニア地域ともにマネージド・プリント・サービスが順調に推移

今後の取り組み

- ・プロダクションサービス、グローバルサービスなどの成長領域の拡大
- ・アジア・オセアニア地域でのさらなる拡販
- ・経費削減及び原価改善施策を追加・加速することで収益性を向上

ぜひご利用
ください!

スマートフォンで撮影した画像も使える! フジカラーの写真年賀状

高画質プリントで年賀状が作れる「フジカラーの写真年賀状」に新たなサービスを追加! スマートフォンに保存している写真をより多く年賀状に使用したいというニーズにお応えし、1枚の年賀状に使用できる写真の枚数を最大12枚までに増やすなど多画面タイプのデザインを拡充しました。加えて、昨年インターネット注文でのみ展開していた「宛名印刷サービス」が、今年は店頭からも注文できるようになりました。ご注文は全国のフジカラー商品取扱店及びインターネット (<http://www.postcard.jp/nenga/>) にて受け付けています。どうぞご利用ください。



ミラーレスデジタルカメラ 「FUJIFILM X-T2」新発売

デジタルカメラ「Xシリーズ」史上最高の画質と動体撮影性能を両立させたミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T2」。独自開発のセンサーと、80年以上にわたり蓄積した色再現技術などを組み合わせることで卓越した高画質を生み出し、被写体の質感・立体感、その場の空気感までも記録することができます。さらに、起動時間やシャッタータイムラグなどのレスポンス性能、AF性能、電子ビューファインダー性能を大幅に強化し、ミラーレスデジタルカメラでは難しいとされていた野生動物やスポーツの撮影など屋外の厳しい環境下での動体撮影も快適に行えます。「Xシリーズ」初の4K動画撮影にも対応しているほか、23本の交換用レンズのラインアップが撮影者の多様なニーズに応えます。



高機能化粧品 「アスタリフト モイストローション」新発売

「アスタリフト モイストローション」は、年齢や紫外線によってダメージを受けるコラーゲンをクリアし、肌にハリとうるおいを与える複合成分「CLリフレッシュ」を新たに配合した高機能化粧品です。また、本製品では新開発のレフィル対応容器「スマートレフィル®」を採用。外容器をなくし、ポンプヘッドを取り外してボトルだけを交換する方式を採用したことで、スリムなサイズを実現するだけでなく残量も見やすくなりました。富士フィルムは、地球温暖化対策の一環として化粧品事業における環境への取り組みを強化しており、「スマートレフィル®」によって容器に使用する素材量を低減しています。



超軽量移動型デジタルX線撮影装置 「FUJIFILM DR CALNEO AQRO」新発売

病院内において、手術中や、レントゲン室への移動が困難な患者のX線撮影は、移動型X線撮影装置を用いて行われます。「FUJIFILM DR CALNEO AQRO(カルネオアクロ)*」は、小型化と従来機比約1/5の軽量化を実現。小型・軽量で機動性に優れており、救急、集中治療室などスペースが限られる医療現場でも素早い検査や画像確認といった最適なワークフローを提供します。

*販売名:富士フィルムDR-XD 1000



業務プロセス変革を支援する 複合機を新発売

一人ひとりが高いパフォーマンスを発揮できる多様な働き方を可能にし、企業の働き方改革を支援する新コンセプト「Smart Work Gateway」。「ApeosPort-VI C / DocuCentre-VI C」シリーズは、その新コンセプトを構成する情報ポータルとして、さまざまなクラウドサービスと連携し、お客様に適したコミュニケーション環境を構築します。また、従来より低い温度での定着を実現した「Super EA Ecoトナー」を採用し、さらなる省エネに貢献。同等クラス最速の高速スキャンを実現するなど、複合機としても大きく進化し、働く人の生産性向上、業務効率化を実現します。



「撮る、残す、飾る、そして贈る」 “チェキ”で広がる写真の楽しみ方

インスタントカメラ“チェキ”「instax (インスタックス)」シリーズは、国内のみならず世界100カ国以上の国や地域で大きく販売を伸ばしています。2015年度はワールドワイドで約500万台を販売。累計販売台数は2,000万台を突破しました。

撮ったその場で写真が見られる手軽さや、メッセージを書いて贈ったり、アルバムに貼ったりしやすい写真サイズが、さまざまなライフスタイルの方に受け入れられ、世界各地で多彩な楽しみ方・活用方法が広がっています。

チェキプリントをもっと楽しく!

世界に一つだけのオリジナルが作れる
「写真のない図鑑」

カメラマンはきみ。
各ページのテーマに合わせて
撮影に出かけよう!



きみだけの1枚を
たくさん集めた
世界に一つだけの
図鑑が完成。



楽しみ広がる! チェキ活用法

シールやペンで
写真とアルバムを
アレンジ



プレゼントに
メッセージ付きの
写真を添えて



撮ったその場で
盛り上がる!



写真を「もっと!」楽しむ

“スマホdeチェキ”「instax SHARE SP-2」

近年、スマートフォンで写真を撮影する機会が増えるとともに、お気に入りの画像をプリントしたいというニーズが拡大しています。富士フィルムは、専用アプリを使ってスマートフォン経由で簡単にチェキフィルムに出力できるプリンター“スマホdeチェキ”「instax SHARE SP-2」を発売。さまざまな生活シーンで利用できる利便性の高さにも、20~30代の若者を中心に世界中で好評を博しています。

SP-2の
3つの特長

データ送信から
10秒で
フィルムの出力完了

高画質&
多彩な
テンプレート

洗練された
デザイン



印刷領域の未来を切り拓く富士フィルム

4年に一度の世界最大の印刷・メディア産業展「drupa」が、2016年5～6月にドイツ・デュッセルドルフで開催。富士フィルムは、さまざまなビジネスへの展開を視野に、富士フィルムグループが持つ多様なインクジェット関連技術を結集し、「FUJIFILM Inkjet Technology」として打ち出しました。

FUJIFILM
INKJET
TECHNOLOGY

近年、印刷業界では、多様化するニーズに柔軟に応える多品種・少量生産を可能とするインクジェット印刷の市場が急拡大しています。これまで主流だったオフセット印刷に対し、インクジェット印刷にはコスト、品質、印刷スピードなどの課題がありましたが、富士フィルムの技術力によってオフセット印刷に匹敵する品質を実現し、世界中の印刷関連メーカーからの注目を浴びています。

1 インクジェットヘッド

世界最高レベルの技術力を誇るグループ会社「FUJIFILM Dimatix」が開発する高性能高耐久性のインクジェットヘッド



Integration

当社が強みを持つ「インクジェットヘッド」「インク」「画像処理」の技術を相互に連携させることで、さらなる強みを発揮します。この最高水準の技術を統合したソリューション展開により、織物や布、建材への印刷など従来の分野を超えて展開しています。



インクジェットデジタル印刷機「Jet Press 720S」

2 インク

民生用・産業用を問わず、幅広いニーズに対応するさまざまなインクラインアップ



3 画像処理

インクジェットデジタル印刷機の性能を最大限引き出す、写真事業で培ってきた独自の画像処理技術



確たる技術に基づく「総合力」で市場をリードする

インクジェットとは、「液体を極めて小さな滴にして、素早かつ確に飛ばす」という非常に応用性の高い技術です。「drupa」でも多くの注目を集めました。この技術は紙への印刷だけでなく、テキスタイル（織物や布）やパッケージの印刷など、多岐にわたる産業分野に展開できます。当社の強みは、それぞれの技術の高さだけでなく、それらを統合してあらゆるソリューションを提供できる点です。今後も多彩なインクとヘッド、それらの組み合わせによるインクジェットシステムの販売を多分野で積極的に拡大し、グラフィックシステム事業の柱となるビジネスに育てていきます。

富士フィルム（株）取締役 執行役員
グラフィックシステム事業部長

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ（株）代表取締役社長

真茅 久則



コーポレート・ガバナンスの充実に向けた取り組み

当社では、取締役及び監査役が期待される役割・責任を適切に果たすため、必要なトレーニング及び情報提供を実施しています。2016年9月には、社外取締役である北山取締役、井上取締役が当社R&D戦略の理解を深めるため、オープンイノベーションハブ(OI-Hub)を見学。チーフ・テクニカル・オフィサーの戸田取締役執行役員と富士フィルム(株)R&D担当の柳原執行役員が、R&D活動全般やオープンイノベーションに関する取り組みについて説明しました。OI-Hubは、富士フィルムグループが持つ技術や製品などに直接触れながら、ビジネスパートナーとともに新たなソリューションを創造する施設です。

両社外取締役は見学を通して、「富士フィルムグループのコア技術の応用展開の可能性がいかに大きいかを実感することができた」などの感想とともに、「お客様との対話や研究機関との積極的な連携などを通じて、イノベーション創出に向けた取り組みを強化してほしい」と期待を述べました。今後も取締役及び監査役へのトレーニング及び情報提供を継続し、取締役会の実効性を向上させ、コーポレート・ガバナンスをさらに充実させていきます。



スタッフからの説明を受ける北山取締役(左)と、井上取締役(右)

●株主メモ

事業年度末日 3月31日

定時株主総会 6月下旬

公告掲載

当社ホームページに掲載します。

URL(アドレス)は次のとおりです。<http://www.fujifilmholdings.com/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内1丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先/電話照会先

〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

単元株式数 100株

連結財務ハイライト

貸借対照表

単位:百万円

科目	2016年度 第2四半期末	2015年度末
	(2016年9月30日現在)	(2016年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	1,695,728	1,789,330
投資及び長期債権	311,776	343,809
有形固定資産	514,900	534,129
その他の資産	652,321	696,406
資産合計	3,174,725	3,363,674
負債の部		
流動負債	586,765	609,147
固定負債	431,236	470,695
負債合計	1,018,001	1,079,842
純資産の部		
株主資本	1,935,609	2,054,453
非支配持分	221,115	229,379
純資産合計	2,156,724	2,283,832
負債・純資産合計	3,174,725	3,363,674

損益計算書

単位:百万円

科目	2016年度 第2四半期累計	2015年度 第2四半期累計
	(2016年4月1日～ 2016年9月30日)	(2015年4月1日～ 2015年9月30日)
売上高	1,120,937	1,226,064
営業利益	63,472	80,671
税金等調整前四半期純利益	60,600	84,599
当社株主帰属四半期純利益	33,544	46,946
研究開発費	80,958	82,918
設備投資額*	33,588	28,528
減価償却費	56,920	57,471

*ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	2016年度 第2四半期累計	2015年度 第2四半期累計
	(2016年4月1日～ 2016年9月30日)	(2015年4月1日～ 2015年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	137,977	96,239
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,584	△91,720
財務活動によるキャッシュ・フロー	△24,053	△98,601
為替変動による現金及び現金同等物への影響	△31,182	△4,346
現金及び現金同等物純増加・純減少(△)	49,158	△98,428
現金及び現金同等物期首残高	600,897	726,888
現金及び現金同等物四半期末残高	650,055	628,460

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申し出先株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申し出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、「配当金領収証」にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

●会社概要

会社名	富士フィルムホールディングス株式会社
設立	1934年1月20日
資本金	40,363百万円(2016年9月30日現在)
本社	東京都港区赤坂9丁目7番3号
連結従業員数	78,976名(2016年9月30日現在)